

『合衆国におけるコンミュニティ・オーガニゼーション

運動の発展過程について』

雀 部 猛 利

目 次

- 一、慈善組織化運動の時代
 - 二、社会事業連盟の勃興期
 - 三、地域社会組織化の発展期
 - 四、発展段階の史的区分とその背景
- (本号掲載)
- (次号掲載)

一、慈善組織化運動の時代

コンミュニティ・オーガニゼーションはイギリスにおける慈善組織化協会運動の発展過程において誕生した社会福祉事業活動の一つの局面であるが、それは資本主義社会の発展過程と深い関聯をもちながら、その現象形態上の変貌を遂げてきた。すなわちイギリスにおける十八世紀末葉から十九世紀前半にかけて行われた産業革命にともない、大きな労働人口が農村から都市へと移動するにつれて、農村におけるこれまでの牧歌的な共同体組織が破滅の方向を辿ると共に、向都人口の窮乏とスラム化が出現するに至った頃、都市における工場労働者の生産労働条件や消費生活環境の劣悪化が顕著な様相を示すようになってきた。こうしたイギリスの現実のなかにコンミュニティ・オーガニゼーションに関する実質的な萌芽が存在していた。従ってコンミュニティ・オーガニゼーションという社会事業の専門用語

は比較的新しい言葉であるとしても、その実質的な活動はかなりそれ以前から出発していたと言わねばならない。

すなわちコミュニティ・オーガニゼーションという言葉は、大体一九一二年頃までは一般のひとびとにとっては馴みの少ない言葉であったが、社会的ニードに適應するような社会福祉サーヴィスを発展させ、その計画を樹立するという意味においてのコミュニティ・オーガニゼーションに関する事実は、かなり古い歴史をもっていると伝えられている。例へば、アダムス (Jane Adams) によれば、年少労働者の保護という立場から煙突小僧の仕事を解放するために煙突掃除協会を創設したのは一八〇三年であったと述べている。^(註) 煤煙に汚れた煙突小僧を解放するために当時の篤志家たちが相寄って煙突掃除協会を設立し、先づ煙突掃除機を二〇〇ポンドで購入し、それによって子供たちの労働を機械に置換えようとした。そして更に彼等は煙突小僧を保護する法案を通過させるための努力を続けた。しかしこの法案は英国の下院をなんとか通過させることができたが、上院の議員たちがこの問題に対して比較的冷淡であったために遂に却下されてしまった。当時の英国では荘園内の大邸宅の煙突は曲げられていたので、煙突掃除協会が使用する掃除機では庶民住宅の煙突掃除以外には役立たなかったから、この法案が上院を通過しなかったらしい。それでも煙突掃除協会はこれに屈することなく、更に掃除機を大量に購入し、零細な町の煙突掃除業者たちに、この掃除機を一週一シリング六ペンスで貸付け、煤で汚れる煙突小僧が一人でも少なくなるように努力してきた。そしてこうした努力が遂に認められて、煙突小僧を保護する法律案が最後に議會を通過する日がやってきたのは、それから更に約七十年の歳月を必要とした。即ち一八七五年になって始めて煤で汚れる煙突小僧が解放される法律が成立したというのである。このように篤志家たちによる民間の福祉活動は、今日の近代的な社会事業活動が始まる以前から既に実施されていた。このような現象形態は謂わば今日われわれが謂う処のコミュニティ・オーガニゼーションの重要な一つの側面を実質的に狙っているもので、われわれはこれを一種の慈善組織化事業 (Charity Organization Movement) であると看做すことができる。しかしながら、合衆国における地域社会福祉組織化事業 (Community

Welfare Organization) の歴史的な発展過程を考える場合には、ダンハム (Arthur Dunham) が指摘した如く、そこには三つの主要な発展段階が存在したと考えるのが妥当である。^(註1) 彼は一八七〇年から一九五七年に至るまでの合衆国の地域社会福祉組織化事業について、年代的な発展過程の一覽表を示しながら、^(註2) その第一の発展段階を慈善組織化運動の時代と名付けている。即ちアメリカ慈善組織化協会が設立される数年前から推進されてきた合衆国の慈善組織化事業は、第一次世界大戦によって結成された戦争募金が広く合衆国に蔓延した一九一七年までの時代を特色づけている。慈善組織化の時代は謂わば社会福祉の創業時代であり、最初は州の組織化 (State Organization) という領域において著しい発展を示した。即ち一八六三年には始めてマサチューセッツ州において州慈善理事会 (the first state board of charities) が設けられ、一八七〇年には他の六つの州にも同様の機関が設置された。しかし州全体にわたる市民の福祉協会が始めて設置されたのは、一八七二年におけるニューヨーク州慈善援護協会 (the State Charities Aid Association of New York) であった。そしてその翌々年の一八七四年には合衆国の社会福祉史上における一つの画期的な事件が起った。それは慈善と矯正に関する全米会議 (National Conference of Charities and Correction) が組織されたことであつた。そしてその年に第一回の年次大会が開かれて一八七四年にはその議事録年鑑 (annual Proceedings) が発行されたことは、社会事業界にとってまさに画期的な出来事であつた。この会議の名称は一九一七年には全国社会事業会議 (the National Conference on Social Work) と呼称されたが、一九五六年には全国社会福祉会議 (the National Conference on Social Welfare) と改名された。この議事録は今日に至るまでの八十年間にわたるアメリカの社会福祉思想をよく表現している。その後一八九九年には全国ユダヤ人慈善事業会議、一九一〇年には全国カソリック慈善事業会議などが斉らされるようになった。

合衆国において最初に都市の慈善組織協会の制度を採用したのはバッファロー市 (Buffalo) であった。一八七七年に創設されたバッファロー慈善組織協会は、一八六九年に設置されたロンドン慈善組織化協会の系統を辿るもので

あり、英国の牧師であるガーティーン (Reverend S.H. Gurtien) によって指導されて成立したものであった。彼は以前にロンドン協会に参加していたが、一八七三年にバッファローに移住してきた。当時公私の救済事業が極めて不適切な状態にあり、施与救済の実情が濫救や漏救によって混乱していた。彼による新しいこの運動の展開は、合衆国における他の都市の間にも、急速に拡がり、一八八三年までの六年間にはボストン、フィラデルフィア、ニューヘヴン、ブルックリン、インディアナポリスなど二五都市において慈善組織協会が結成されるようになった。そしてアメリカにおける慈善組織化運動は主として二つのことを取扱ってきた。すなわち、その一つは家族や個人に対して比較的效果的で且つ適切な個人的サーヴィスを提供することであり、今日われわれが謂う所の地区福祉協議会運動 (Regional Community Organization) における民生委員や児童委員の個別的処遇に属するような活動系列であった。そうしてもう一つは、地域社会に関する慈善的ないしは福祉的な諸問題に対して、協同して処理するサーヴィスの提供であり、謂わば今日わが国における社会事業施設協議会 (Functional Community Organization) 活動に似た施設間の協同や協力活動であった。このように慈善組織化協会は、個人に対するサーヴィスと共に社会福祉施設団体間の協力を促進することに努めてきた。すなわち協会を創設することによって一方では悪徳、怠惰、窮乏などの防止に努めると共に、他方では結核防止、住宅問題、児童労働問題、救済貸付などに対応する委員会などを設けて、協会の間の相互の援助と協力による地域共同社会の福祉サーヴィスを確立していった。ニューヨークの慈善組織化協会は、雑誌「社会事業調査 (The Survey)」の前身である「慈善事業 (Charities)」を定期的に発行するようになった。そして合衆国における最初の社会事業学校であるニューヨーク社会事業学校を創立した。また一九〇七年のピッツバーク調査を計画する場合の助けとなつたし、そしてまたこの方面における全国施設団体の先駆である現業面のサーヴィスを創始した。このように慈善組織化運動の土壤から社会事業情報交換所 (the social service exchange) や社会福祉協議会 (the community welfare council) や社会事業施設協議会 (the council of social agencies) が誕生した。

今日アメリカにおける社会事業情報交換所の前身は、最初は一八七六年に民間の篤志家たちによって組織されたボストン登録局 (the Boston Registration Bureau) であり、主として被救護家族たちに関する記録を集めた索引所であった。これは被救護家族に関する情報を確認することが出来る唯一の機関であり、今日の近代的な中央索引所の構想を導いた原型であった。アメリカにおけるたいの情報は情報交換所は慈善組織化協会によって設置され、且つ運営されてきた。そしてまた多くの社会事業施設協議会や共同募金は一九二〇年代に入って設立されるようになったので、ますます多くの社会事業情報交換所が社会事業施設協議会や募金委員会の援助によって設置されるようになったり、またその業務をそれらに移管したりするようになった。

社会事業施設協議会は一九〇八年ピッツバーグ市において最初に結成された。初期における協議会はたいの慈善組織化協会から誕生した。従って地方における協議会の多くの指導者は慈善組織化協会の執行部の出身であった。そして協議会に対する現業面での最も初期の全国的なサーヴィスは、今日の謂ゆるアメリカ家族サーヴィス協会の職員たちによってなされていた。

地域社会組織化における初期の指導者たちは共同募金や協議会によって次第に訓練されるようになってきたので、慈善組織化協会はケース・ワークに対しては比較的深い関心を寄せたが、地域社会組織化という課題に対してはそれほど深い関心を寄せなくなった。すなわち社会事業に関する経験が積み重ねられてゆくに従って、次第に次のような諸点が強調されるようになってきたからである。

(1)、ケース・ワークとコミュニティ・オーガニゼーションとは専門的に分化してゆくことの必要性が主張されるようになった。

(2)、需要者サーヴィス機関はその姉妹機関との共同計画や調整に際して、効果的な指導を与えることを期待することが出来なかった。

(3)、計画や調整は当然それに必要な資金を共同で調達することと密接に結びつくべき性格を備えていることが自覚されてきた。

第一次世界大戦後は、地域社会よりも家族の方に慈善組織化協会の主要な関心の的が移り、家族社会事業に集中していったので、家族福祉や家族サーヴィス機関に対する名称も変えるようになってきた。それでも隣保館などは集団活動やレクリエーション活動を取扱ったり、大都市のなかにおける近隣や地区社会の福祉問題を取扱ってきた。例へば一八八六年にはボストンに児童遊戯場が設置され、また一九〇一年にはニューヨークの一部の学校において放課後子供たちのために学校を解放し、スクール・コミュニティ・センターとしての機能を發揮した。これは一九一七年におけるコミュニティ・センターの先駆をなすものであった。また一九〇八年には農村生活改善委員会が設置され、農村における家族生活の改善運動が起った。コミュニティ・オーガニゼーションは、その用語が常に必ずしもすべての人達に同一の意味で理解されてはいないが、それは出発の当初から隣保館計画の重要な特質となってきた。隣保館運動は主として近隣や地区社会の福祉と発展にたずさわってきた。隣保館が実施してきたコミュニティ・オーガニゼーション過程の特殊な局面は次の三点を強調する処にあった。すなわち、(1)、都市における近隣を重要視することであった。近隣関係の強調という関心のもとにおいて、地区や近隣の協議会、シンシナティ社会地区編成単位実験(the Cincinnati Social Unit Experiment of 1917-1919)、都市連盟、戦時ブロック組織などが包含される各種の機関がつぎつぎに結成された。(2)、実験的に新しい進歩的な計画を上演していった。(3)、直接的な努力や地方資源の動員や民主的な社会福祉対策活動などによって、必要な変化を齎らすため地域社会の住民が自ら組織化することの必要性を強調した。

アメリカの社会事業において重要な役割を演ずるようになった多くの全国福祉施設は、慈善組織化時代に創設された。一九四七年の社会事業年鑑(the Social Work Year Book, 1947)によれば、二五六の全国民間社会福祉施設

のうちで、一八七〇年以前に設置されたものは僅かに九施設に過ぎず、一八七〇年から一九一九年までの謂ゆる慈善組織化時代に九七施設が設置されている。^(註)アメリカにおける社会調査の活動は、英国においてブースが行った「ロンドン市民の生活と労働、一八九二年」の調査業績にその先駆的形態を見出すことが出来る。すなわち、シカゴにおけるハル・ハウスやボストンにおけるサウス・エンド・ハウスのような隣保館による調査研究や社会状態に関する実地調査やジャーナリスティックな研究やコミュニティに関する社会学的研究などがつぎつぎに現われ地域の実情を充分把握しなければ、科学的な改良計画が立てられないという気運が高まってきた。また一九〇五年には「慈善と庶民」の編集部がワシントン市の研究に着手した。ピッツバーグの調査は一九〇七年から八年にかけて実施され、その結果が四冊の書物になって出版された。一九〇九年には雑誌「慈善と庶民」は「調査」と改題され、一九五二年の発刊停止に至るまで多くの実態調査の結果を掲載してきた。また一九一二年にはラッセル・セージ財団の中に調査弘報部が設置され、調査に関する資料や援助の中心となった。一九一四年に行われたイリノイ州のスプリングフィールド調査もこの財団の調査部が実施したものであった。このように地域社会に関する調査がコミュニティ・オーガニゼーション運動と共に盛んになり、全国の社会福祉機関が包括的な地域社会調査に乗り出すようになった。

このように第一次世界大戦が終焉を告げるまでの時期は、アメリカの社会事業はまさに慈善組織化運動を中心として発展の途を辿ってきたといえるだろう。いま一九一七年までの期間における社会事業面の出来事を年代的に列記するならば次のような事件が存在した。

- * 一八七二年、ニューヨーク州慈善援護協会の結成 (State Charities Aid Association, New York)
- * 一八七三年、全国慈善事業会議の開催、後には全国社会事業会議に改名 (National Conference of Charities and Correction, since 1917, Nation Conference of Social Work)

* 一八七六年ボストン登録所の創設、後には社会事業情報交換所に発展 (Boston Registration Bureau precursor of the social

service exchange)

- * 一八七七年、バッファロー慈善組織協会の創設 (Buffalo Charity Organization Society)
- * 一八八一年、ワイズコンシン社会事業会議 (Wisconsin Conference of Social Work)
- * 一八八六年、ニューヨーク近隣組合の創設、合衆国における最初の隣保館、後の大学隣保館
.....first settlement in the United States, later named University Settlement)
- * 一九〇五年―一九〇六年、雑誌「慈善と庶民」の編集部職員によるワシントン市の調査の実施、社会調査運動の創始 (Survey of the city of Washington, D.C., by staff of magazine, Charities and Commons (later, the Survey), Beginning of the "social survey movement.")
- * 一九〇六年、近代的な社会事業情報交換所 (中央索引所) の創設 (Beginnings of modern type of social service exchange, (central index))
- * 一九〇八年、ピッツバーグ慈善組織中央協議会、最初の社会事業施設団体協議会 (Pittsburgh "central council" of Associated Charities (first council of social agencies))
- * 一九〇九年、ルーズベルト大統領によって唱えられた児童福祉に関する第一回白亜館会議、その後の会議は一九一九年、一九三〇年、一九四〇年、一九五〇年に開催 (First White House Conference on child welfare called by President Theodore Roosevelt (later conferences, 1919, 1930, 1940, 1950.))
- * 一九一一年、バイントン女史が「社会事業家達はわれわれ自身の社会について何をなすべきか」という著書が出版。慈善組織化団体全国協会、現在のアメリカ家族サービス協会 (Margaret F. Byington.....What Social Workers Know About Their Own Commities, National Association of Societies for Organizing Charity (now Family Service Association of America))
- * 一九一二年、合衆国児童局の設置 (United States Childrens Bureau)
- * 一九一三年、クリーブランド慈善博愛連盟の結成、最初の近代的な共同募金を創始 (Cleveland Federation of Charities and Philanthropies.....first modern community chest)
- * 一九一六年、全国社会事業家交換所の創設、後にアメリカ社会事業家協会と改称 (National Social Workers Exchange, (America Association of Social Workers))
- * 一九一七年、イリノイ州に社会福祉部を創設、最初の近代的な州福祉部 (Illinois Department of Public Welfare first mo

dem state welfare department)

* 一九一七年—一九一八年、戦争募金の勃興 (Rise of the War Chests)

* 一九一七年—一九一九年、シンシナティ社会地区編成単位の実験 (Cincinnati Social Unit Experiment)

(註一) Jane Addams; "President's Address: Charity and Social Justice," NCSW 1910 pp.3-4.

(註二) Arthur Dunham; Community Welfare Organization, Crowell 1958 pp. 69-71.

(註三) Ernest B. Harper & Arthur Dunham ed.; Community Organization in Action, Association Press 1959 pp.114-116.

(註四) Marvin L. Diller, National Social Welfare Agencies; A Classification and Analysis Based upon the Director's of Social Work YearBook 1947, p.27

二、社会事業連盟の勃興期

コミュニティ・オーガニゼーションに関する第二の発展は、戦争を契機として大きく展開し一九一七年から一九三五年に至るまで続いた。すなわち第一次大戦に直面した米国の戦時態勢が、地域社会の紐帯を拡大強化して行った。この期間における主要な現象は、共同募金と社会事業施設協議会が勃興して急速な発展を遂げたことであった。現在共同募金運動が最も盛んに行われているのは合衆国であるが、その起源は英国にあった。すなわち一八七三年に英国のリバプール (Liverpool) 市において、民間の有力者たちが互に寄附金募集の重複や強制的勧誘を回避せんとし、自ら寄附金の積立てを実施して慈善団体の財政上の援助を行った。この運動が米国にも導入され、デンバー市において慈善組織化協会と一五の救済機関が合同の資金調達機関を結成して、共同で寄附金募集を行った。すなわち合衆国における共同募金は、寄附金募集の経費を少なくし、且つ募金回数を制限すると共に、資金の使用においてもより効果的なものに運用せんとする運動であった。たとへばユダヤ人の社会事業施設の連盟が一八九五年と一八九六年にボストン市とシンシナティ市において共同で資金を調達する機関を結成したり、また一九一九年には小さい財政上の連合体がニューヨーク州のエルミラ (Elmira) で形成されたりして、共同で寄附金を集める運動を行った。その

後、寄附者側から行う近代的な共同募金運動がクリーブランド市 (Cleveland) において行われた。クリーブランド市においては、一九一三年まではそれぞれの社会事業団体が別個にそれぞれの募金運動を行っていたが、実業家や大口の寄附者にとってはあまり喜ばれなかった。そこで一九〇七年にクリーブランド市の商業会議所は慈善団体調査委員会 (Committee on Benevolent Association) を組織して、市内にある六一の民間社会事業団体が必要とする金額と、その財政的援助ならびにその実績について調査研究を行い始めた処、民間の社会事業団体に對する寄附者が極めて少ないことを知った。その結果誕生したのが即ち一九一三年のクリーブランド慈善博愛連盟 (Cleveland Federation for Charity and Philanthropy) であった。この連盟の目的はクリーブランド市やその近郊にある慈善博愛団体の事業を援助し、それを調整することであつたので、この連盟に加入して援助を受けようとする団体は、先づクリーブランド市商業会議所の同意を得ることが必要であつた。而もこの連盟に加入した団体や施設は、財政上の統制管理をこの連盟から受けるばかりでなく、いろいろな事務上の統制も受けねばならなかつたので、彼等は市長に對して市民代表と社会事業専門家とによつて組織される社会福祉協議会を新たに結成することを進言した。その結果発足したのが一九一四年の謂ゆるクリーブランド福祉協議会であつた。そして三年後の一九一七年には慈善博愛連盟と福祉協議会とが合併して、クリーブランド福祉連盟を結成した。即ち共同募金と福祉協議会とが一つの組織の中で行う新しい共同募金協議会 (Community Chest and Council) の形態が誕生したのであつた。このような形態は今日のアメリカの都市においては多く見られるものであるが、その原型はまさにこのクリーブランド市共同募金協議会に求めることが出来るのである。

一九一七年に合衆国が第一次世界大戰に突入するや、戦争募金の運動が雨後の筍の如く拡がり、財政連盟は数百ヶ所の地域社会において戦争募金に関係した。戦争が終つて一九二〇年代になると、多くの戦争募金運動が平時の共同募金に切り換えられていった。そして一九三〇年までには共同募金計画は、大都市の主要な民間社会事業施設の定評

ある財政調達方法となった。そして一九二〇年代にはあちらこちらの地域社会において共同募金が組織づけられて、協議会と共同募金との提携が盛んとなり、共同募金と協議会とが一つの運動の両面の如く協力する機関であると考えられるようになってきた。然し不況がやってくると、募金活動は施設の資金調達への努力を一層強化していったが、一九三三年頃までには次第に行政的な基金によって満たされねばならないことが明らかになってきた。すなわち、第一次世界大戦中戦災をうけなかった米国は、戦後驚くべき好景気にみまわれ、都市化と工業化の速度が一段と高まっていたが、それはまた逆に地域社会の連帯性や紐帯を著しく弱め、小集団の統出をみるに至った。そして社会崩壊の兆候が現われかけた頃、一九二九年より始った大不況に遭遇し、一千万以上にのぼる大失業者を出して、労働者の家庭の崩壊と危機を呼び起したので行政的な基金なくしてはこの危機を乗り切ることが出来なくなったのである。

アメリカ地域社会組織化協会 (The American Association for Community Organization) が募金と協議会の全国的な機関として結成されたのは一九一八年であった。これは後にはアメリカ共同募金協議会 (Community Chests and Councils of America) として知られるようになり、一九五六年にはアメリカ合同地域社会基金協議会 (United Community Funds and Councils of America) と改名された。そして一九二三年にはこの協議会が共同募金実行委員会の職員たちを現任訓練するために、オハイオ大学と協同で八週間の短期講習を行った。これが後には社会事業学校に発展し共同募金や協議会の職員の訓練の重要性を主張するようになった。またアメリカ地域社会組織化協会とクリーブランド福祉連盟は、一九二四年にクリーブランド市における社会事業の書物と経費に関する研究を創めた。そしてこれは一九二八年にはアメリカ地域社会組織化協会シカゴ大学の援助を得て社会統計の登録に対する合同の計画をたてるようになった。いくつかの全国的な行政機関や民間機関によって、重要な統計的報告がなされるようになった。

第一次世界大戦の頃には、こうした形態の協議会の他に三つの型の協議会形態が組織化された。すなわち、その一

つは一九一七年に結成されたシンシナティ公衆衛生連盟であり、アメリカの都市において最初に独立した保健協議会 (Health Council) であった。第二の形は農村地区の地域社会協議会 (Community Council) であり、一九一二年と一九一八年との間にマサチューセッツ州において幾つかの協議会が結成された。第三の類型は調整協議会 (Coordinating Council) であり、一九一九年に始めてカリフォルニア州のバークレイにて結成され、一九三〇年代には全カリフォルニア州に波及し、後には全米にまで拡がっていった。

また一八六三年から一九一七年までの間では州の公的な福祉機関といえば、概して監督上の州慈善委員会かさなければ行政上の統制委員会であったが、一九一七年になって始めて州政府に近代的な社会福祉部がイリノイ州に創設され、今日では州の福祉機関が州政府の社会福祉制度の要^{カネ}をなすものとなり、市民への多くのサーヴィスやそれに関連する部面では地域社会の組織化を利用するようになった。そして一九一七年から一九三五年までの間に新しい全国的な社会福祉機関がつぎつぎに設置されていった。一九二一年に結成されたアメリカ社会事業家協会は、社会事業家のために設けられた初めての専門的な組織であり、彼等のうちには勿論コミュニティ・オーガニゼーションの専門家も混っていた。また一九三〇年にはアメリカ社会福祉主事協会 (the American Association of Public Welfare Officials) が設立され、日増しに公共の福祉が重要になってくることを予告した。

ラッセル・セージ財団の調査展示部 (the Department of surveys and Exhibits) は漸次その重要性を調査から解釈へと移し、一九三四年にはこの部局は社会事業解釈部 (the Department of Social Work Interpretation) になった。そして一九二一年には早くもこの部局の代表者たちは、コミュニティ・オーガニゼーションの重要な一つの側面である解釈や弘報宣伝関係に関する問題と方法を取扱う全国的な機関として、社会事業弘報宣伝協議会 (the Social Work Publicity Council) を組織化するのに援助した。全国的な社会事業機関の間における密接な協力がなされ始めたことは、一九二一年に結成された全国保健協議会や翌年結成された全国社会事業協議会によって明らかに

されてきたが、このことは全国的な水準において社会事業機関の協議会がもたれその構想が練られることの必要性を訴えている。アメリカ社会事業界におけるコミュニティ・オーガニゼーションの発展過程において、一九一七年から一九三五年までの第二期は、まさに連盟勃興の時期であり、全国的な水準における各種の社会事業団体の連盟や協議会が結成された時代であった。

今その主な出来事を年代的に表示すると、次のようなものがあった。

- * 一九一八年、アメリカ地域社会組織化協会の結成、今のアメリカ地域社会基金連合協議会 (American Association for Community Organization (now United Community Funds and Councils of America))
- * 一九二〇年—一九三〇年、共同募金と社会事業施設協議会の拡大組織化がなされ、協議会と共同募金の主催のもとで多くの社会事業情報交換所が組織化されたり、協議会や共同募金に移管されたりした。(widespread organization of community chests and councils of social agencies. Many social service exchanges organized under or transferred to auspices of councils and chests.)
- * 一九二〇年—一九四六年、国際連盟 (League of Nations)
- * 一九二一年、全国保健協議会 (National Health Council)、アメリカ社会事業家協会 (American Association of Social Workers)
- * 一九二二年、全国社会事業協議会 (一九二二—一九四五) (National Social Work Council 1922-1945)
- * 一九二五年、スタイナーのコミュニティ、オーガニゼーションの書物が出版 (Jesse F. Steiner: Community Organization, Pioneer Textbook)
- * 一九二六年、国際社会事業会議が結成、第一回の会議はパリで一九二八年に開催 (International Conference of Social Work organized (First Conference held at Paris, 1928))
- * 一九二九年—一九三五年、不況に直面、広範囲にわたって失業者を出す (Depression—widespread unemployment)
- * 一九三〇年、社会事業年鑑が創刊され、第一巻が一九二九年に計画され、この年鑑とその後の年鑑の中でコミュニティ、オーガニゼーションに関するいろいろな立場の論文が掲載された。(Social Work Year Book founded, (First volume designated

Social Work Year Book 1929. Articles on various aspects of community organization included in this and subsequent volumes.)

- * 一九三三年、連邦臨時応急救済事業會議 (Federal Emergency Relief Administration 1933-1936)
- * 一九三五年、社会保障法の成立 (Social Security Act)

Sasabe, Taketoshi

On Development Process of Community Organization Movement in the United States.

Résumé

There have been three major periods in the development of community welfare organization in the United States since 1870. The first may be called the charity organization period, because community organization was must clearly and broadly expressed through the charity organization societies during these years. This period extended from about 1870 to 1917, when the war chests associated with World war I were being organized extensively in American communities. This second period may be designed by its striking characteristic —the rise of federation, through chests and councils. It lasted from the rise of the war chest, in 1917, to about 1935, when the Social Security Act set the stage for the development of the public welfare programs of to-day. The third period, from 1935 to the present time, is harder to designate because we are still in [the midst of it. It may be tentatively characterized as a period of expansion and professional development, since it has been marked by a recognition of the broader implications of community organization and by an increased concern with the analysis of the process and the development of professional skill in its use.

On above three major periods in the development of community organization in the United States, their characteristics and their backgrounds will be envisaged on continued paper.